11 设于17		P <del>C</del> :	我 女 們	<u></u>						
科目		看護学概論	単位数	1	開講時期	1年前期				
授業形態		講義	時間数	30	必修区分	必修				
担当者	看護的	看護師 佐野繁子								
授業目的		看護の基盤となる理論・歴史・原理について学ぶ。								
到達目標	する 2看記 を引	人間とはどんな存在か、健康の考え方の変遷を知り、主要な理論家の看護の概念を学び活用する意味を見出し表現する。 2 看護の歴史的変遷、看護制度の成り立ち、看護の動向を知り、看護師が専門職である必要性を表現する。 3 授業を通して看護とは何かを問い続け、現時点で自分が考える看護とは何かをを表現する。								
技術項目										
授業概要	につい 考える 職業 と 授業を	統計資料や事例を通して、人間・健康について考えていきます。ナイチンゲール・ヘンダーソンについて学び、主要な理論家の看護の概念はグループで学習し、看護理論を学び活用する意味を考えていきます。 機業としての看護について、法に着目し、専門職の特質を視点に看護師は専門職といえるかを考えていきます。 受業を通して常に、「看護とは何か」を問い続け、仲間と看護について考えていきます。この科目の終了時には、現時点で自分なりの看護とは何かの答えを見出します。								
		内容		準	備等	担当者				
	1	看護とはを学ぶにあたり、看護師を目指すほ	自己を見つめる	理由、今考	を目指した えている看 的に表現し					
	2	法律と看護職能団体による看護の定義を知さ ナイチンゲールの登場による変化を仲間とも		により看護 に変化した テキストを について6	ールの登場はどのようか表現する 読み、看護 つの構成要 講義時持参					
	3	小テスト① 看護の対象である人間はどんな存在か考える	3							
	4	<b>小テスト②</b>			表現する から健康に 取り講義時					
	5	健康について考える 自分は健康か 統計資料から考える 事例を通して考える 健康の考え方の変遷を知り、健康の考える	を共有する							
	6				え方の変遷 を読みまと 持参					
	7	小テスト③ 職業としての看護 看護職の変遷、法的、就業場所の特徴を領	即る		格とその特 トを読みま 時持参					
授業展開	8	小テスト④ 看護師は専門職か、専門職の特質から考える・高度に体系化された知識・技術を修得して (看護基礎教育と養成制度に注目) ・ 職様に関する土幅なりませ、主体性(自2	ているか			佐野繁子				
	9	・職域に関する大幅な自主性・主体性(自行るか(法・看護の独自の機能に注目) 小テスト⑤ ・社会的奉仕(公共性)があるか (医療・看護サービスの特徴と対価のしくる		についてナ ルとヘンダ	ての独自性 イチンゲー ーソンの考 り講義時持					

	10	・職能団体として倫理綱領をもっているか (職業倫理に注目)	事例の学生の戸惑いを 想像し、看護の方法Ⅱ で学んだ看護倫理の知 識を活用して考え表現 し、講義時持参					
	11	小テスト⑥ 看護師が専門職である必要性について考えを共有する	看護サービス提供の場 と法と特徴をテキスト を読みまとめ、講義時 持参					
	12	小テスト⑦ 担当した理論家が同じ仲間と学習成果を確認し、他のメン バーに伝達する資料をブラッシュアップする	担当した理論家の看護 の概念について資料に まとめ、メンバーに事 前配付					
	13	担当した理論家の看護の概念を他のメンバーに伝達講習 看護理論を学び活用するということについて考え共有する	ブラッシュアップした 資料を理論家が異なる メンバーに事前配付					
	14	看護とは何かの考えをまとめた学びのプロセス図解(プロセスチャート)を用いて、仲間と意見交換	プロセスチャートを作 成しメンバーに事前配 付					
	15	終了試験						
履修条件	ので、 仲間と 標達原	の多くは、事前学習を使ってすすめていきます。事前学 不明な点はそのままにせず確認しながらすすめていき と看護について考えていきますので、自分の考えをもち 成に向けて取り組んでいきましょう。 ストは授業進度により変更する場合がありますので、授	ましょう。 、積極的に仲間と意見					
評価方法	今私力	式験(小テスト10点・終了試験70点) が考える「看護とは何か」をプロセスチャートに表現す 姿勢 10点	るパフォーマンス課題	10点				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護学概論 医学書院 フローレンス・ナイチンゲール看護覚え書き 小玉香津子他訳 日本看護協会出版会 V. ヘンダーソン 看護の基本となるもの 湯槙ます訳 日本看護協会出版会 *入学前課題図書 新装版 愛、深き淵より 星野富弘著 学研プラス							
参考書	ナイラ	ナイチンゲール 看護覚え書 小玉香津子訳 現代社 ナイチンゲール「看護覚え書き」入門 平尾真智子 医学書院 V. ヘンダーソン選集 小玉香津子訳 医学書院 看護理論家の業績と理論評価 筒井真優美編集 医学書院						
備考								

1日设于17		門	我 女 啊							
科目		看護の方法 I	単位数	1	開講時期	1年i	前期			
授業形態		講義・演習	必修区分	必	修					
担当者	看護的 感染管	师 森 康太(14)  高野 祐志(6) 管理認定看護師 齋藤 敦子(6)	看護師 松本	めぐみ (10)						
授業目的	看記 看記 【話 話 看記 「感	【看護技術・観察】 (4) 看護技術とは何か、どのように学習していくか知る。 看護における観察とその意義について理解する。 話す・聞く】(14) 看護における効果的なコミュニケーションを理解する。 「感染予防】(12) 感染予防の技術について学ぶ								
到達目標	看護場コミニ	護技術を習得していく過程を学びながら、看護における観察の意義と手法を理解する。 護場面によくみられるコミュニケーションの実際を通し、効果的なコミュニケーションを体験的に学び、自己の ミュニケーションにおける傾向を知る。 護における感染予防の必要性を学び、標準予防策を理解する。								
技術項目		スタンダードプリコーション 58:必要 廃棄物の取り扱い 61:無菌操作	要な防護用具の選	択 59:使用した器機の感	染防止の取り扱	LV 60	):感			
授業概要	感染	こ看護の方法の学習方法など総論として 方止の技術・コミュニケーションの単元 おして学ぶ。		る。看護するうえで共通し	て必要な技術を	講義・	演習			
		内容		準備等		担旨	当者			
	1	看護の方法総論1 看護技術とは 看護の方法の学習方法	\$				本 ぐみ			
	2	看護の方法総論2 看護と観察								
	3	感染防止の基本知識   感染成立の条件   院内感染と防止策				高野	祐志			
	4	感染予防策 スタンダードプリコーション 感染経路別予防策								
	5	演習 衛生学的手洗い 個人防護具の着脱 滅菌手袋装着		個人納品の演習セット から持参する物品あり		齋藤	敦子			
	6	臨床での感染対策の実際(院内)								
授業展開	7	洗浄・消毒・滅菌 基本知識 無菌操作の基礎知識				-82	44-4-			
	8	演習 無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い		個人納品の演習セットかり あり	ら持参する物品	高野	祐志			
	9	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素とプロ 関係構築のためのコミュニケーション								
	10	聴くとくこと、伝えるということ 看護場面におけるコミュニケーション	の実際							
	11	効果的なコミュニケーションを考える プロセスレコード	5			森	康太			
	12	プロセスレコードを用いた検討①		プロセスレコード						
	13	プロセスレコードを用いた検討②		検討会						
	14 効果的なコミュニケーションを考える									
	15	終了試験								
履修条件			えていく上での基準	- 本となります。知識を確実	にもち、実践に	つなが	るよ			
評価方法	終了記	式験及び提出物								
テキスト	系統和 系統和	「護学講座 専門分野 基礎看護技術 ] 「護学講座 専門分野 基礎看護技術 I	[ 医学書院 I 医学書院							
参考書										
備考										

科目			単位数		1年前期				
授業形態	手进饵	講義・演習   時間数   30 必修区分   必修   看護師 今井 弓珠							
担当者	有護印								
授業目的	看護の基	基本となる共通技術を学ぶ。							
到達目標	看護の基本的な共通技術となる観察、記録、看護過程について理解する。 1)どのように考えることが看護師らしく考えることなのかがわかる。 ①看護過程の構成要素を知り、それぞれの内容について理解できる。 ②問題解決過程(思考)について、看護過程との関連を含めて理解できる。 ③クリティカルシンキング(批判的思考)について理解すると共に、繰り返しトレーニングできる。 ④倫理的配慮と価値判断について、医療・看護における倫理の原則を踏まえて、自分の経験と関連付けて考えることができる。 ⑤リフレクションについて理解すると共に、繰り返しトレーニングできる。 2)呼吸・体温についての観察・記録・看護過程について、知識を活用して実施することができる。								
技術項目	29:体温	調節の援助 50:バイタルサインの測定	52:フィジカルア	セスメント					
授業概要		る形態機能学やフィジカルアセスメント & 養の専門的思考の基本をここで学び、看記			定していま				
		内容		準備等	担当者				
	1	看護過程と看護の専門的思考		テキストの該当内容の学習					
	2	問題解決思考とは何か		テキストの該当内容の学習					
	3	クリティカルシンキング		テキストの該当内容の学習					
	4	クリティカルシンキング							
	5	看護過程 倫理的配慮と価値判断		テキストの該当内容の学習					
	6	リフレクション		テキストの該当内容の学習	 学習				
授業展開	7	リフレクション		体験のリフレクション					
1文未成例	8	リフレクション			今井 弓珠				
	9	看護過程 情報収集・アセスメント		テキストの該当内容の学習					
	10	看護過程・健康問題の抽出から評価	iまで	テキストの該当内容の学習					
	11	看護記録		テキストの該当内容の学習					
	12	ヘンダーソンの観察の視点:正常に	呼吸する	テキストの該当内容の学習					
	13	ヘンダーソンの観察の視点:正常な	体温を維持する	テキストの該当内容の学習					
	14	看護師らしく考えるとは		観察内容の記録					
	15	終了試験							
履修条件	看護の思考の基礎を学びます。 バイタルサインの観察技術は、患者さんの状態を知る大切な基本技術です。技術を手順で覚えようとしても身につきません。行為の意味を理解した上で、繰り返し練習をして正確な技術の習得を目指しましょう。また、正確に観察するためには物品の管理も重要となります。使用する器具の自己管理を確実に行いましょう。 授業内容に該当するテキストのページを提示するので、事前学習をして臨むこと。								
		験・課題(ワーク含む)・確認テス  授業開講時に伝えます。		言忍)					
テキスト	系統看語 系統看語		医学書院 医学書院						
<u>参考書</u> 備考									
川ち	<u> </u>								

看護学科 講義 要綱

看護学科		<i>z</i> =# o		義	<u>要</u>	裥						- 17-110			
科目		看護の				单位数		1		開講時期		=前期 >/ kg			
授業形態 担当者	看護師	講義・ 	真理子	(14)		時間数 1000 本	<u>」</u> 美(16)	30		必修区分	,	必修			
授業目的								態を理解	<u>!</u> し、援	助の必要性	と技術	を学			
到達目標	身l メン	身につける。患者の身体・精神状態にあった排泄援助について、アセス メントと計画を立てる。													
技術項目	排泄援助	2:食事介助 4:食事指導 5:経管栄養法による流動食の注入 6:経鼻胃チューブの挿入 7: 排泄援助 8:膀胱留置カテーテルの管理 9:導尿または膀胱留置カテーテルの挿入 10:浣 腸 11:摘便 69:安楽な体位の調整													
授業概要	解した負事例に合	食事・排 合わせた	泄援助の 食事・排	実際を 泄援助	:学ふ ]のた	ヾ。 5法を考	え実施し		象が安	の食事・排 全で <del>安</del> 楽に る。					
	回数					内容				準備等	担	.当者			
	1		とって食 <i>/</i> D機能、		ح										
	2	機能障害	害が食事(	のニー	ドに	及ぼす	影響								
	3	食事援助の実際① 患者の安全・安楽・ 食事のニードが満たされるための工夫 「食事介助をする、受ける体験」 食事援助の実際② 演習①をふまえて事例に沿った食事援助の 計画、実施、評価								演習	木下	真理子			
	4														
	5	非経口的	内栄養摂取	取とは											
	6	非経口的	的栄養摂取	取の援	助					演習					
	7	自分の打	非泄につい	いて考	える										
授業展開	8		爰助を計画 メントに												
	9	ポーク	非泄方法( タブルト・ <b></b> 直具がどん	イレ・	尿器	・便器									
	10 11	尿器	未上排泄( ・便器 oの装着(		の実	際				演習	石島	祐美			
	12	便秘记 排尿障害	害時の援題 改善・浣腸 害時の援題 (一時的	腸・摘動につ	便 いて						寅習				
	13	演習	非便障害							演習					
	14		排尿障	害時の	)援則	力の実際	:導尿								
	15	終了試	<b>検</b>								木下	真理子			

	看護師として患者に適した食事援助をする事の意義について考えながら授業に臨みましょ う。
	対象にとっての食事・排泄の意義を理解し「食」と「排泄」の行為、他人にゆだねる苦痛は
	計り知れない。  ・排泄は、人間の尊厳にかかわる援助なので、真摯に取り組んでほしい。 
	出席状況 課題の提出状況・内容 終了試験100点:食事の援助40点 排泄の援助60点
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院
参考書	必要時、講義でお知らせします。
備考	

#### 講義 要綱

				講	義 要 綗	ij			
科目		看護の	方法IV	単位数	1		開講時期	1年	前期
授業形態		講義・	・演習	時間数	30		必修区分	Ų	必修
担当者	看護	節 亀山	美穂 (20)	高野 祐志	(10)				
授業目的	引人	間の暮らしる	環境調整に必要を作り出す日常 寺することの意	営生活行動につ	いて、から	だの動き ・眠るを	・に注目して学ぶ。 ・支える援助の方法	また、運動 について <sup>9</sup>	動と休息の 学ぶ。
到達目標	1		養環境の整備。 急の援助を安全	全安楽に実施す	<sup>-</sup> る。				
技術項目	15: 69:	移乗介助 安楽な体位	環境 2:臥房 16:体位変換・ 2の調整 70:多 を保つためのク	保持 17:自i で楽の促進・苦	動・他動運動	動の援助	の移送 14:歩行・ 18:ストレッチャ ア	移動介助 ,一移送	
授業概要	環境・動く眠るの2つの単元で構成する。健康と人間の生活を2つの観点から日常生活の行動を意識 しながら学ぶ。								
				内容			準備等		担当者
	1	環境とは					療養環境とは		
	2	リネン類の	の取り扱い				リネン類の役割・雪		
	3	病床の作り	り方 ベッドメ	イキング		チューターによる 技術習得を目指す		高野 祐志	
	4	臥床患者の	カリネン交換				ベッドメイキングの応用		
	5	ベッド周囲	囲の環境整備・	事故防止の技		演習・グループワ	リーク		
	6		急のバランス 亍動、姿勢と体	位、関節可動	・運動と休息の意・看護の役割につ				
	7	ボディメガ 理学的な初 人間の自然	見点を生かした	き身体の動かし		・ボディメカニク	'スとは		
授業展開	8	体位変換				・ボディメカニクス			
	9	人間の自然	然な動きを活用	目した移動の援	助		た移動の援助	亀山 美穂	
	10	車椅子を流	舌用した移乗と	·移送			・ボディメカニクス ・ た移動の援助		
	11	ストレッチ	チャーを活用し	,た移動、歩行	の介助		・安全・安楽について考える		
	12	人間にとっ	っての眠りと休	息			・運動と休息の意 ・看護の役割につい		
	13	安楽確保0	の援助①罨法、	精神的安寧を	保つケア		・罨法について ・安楽につながる扱 て考える	受助につい	
	14	安楽確保の	の援助②体位保	?持、安楽な体	位の調整		・ポジショニングに ・まとめ	こついて	
	15	終了試験							
履修条件	・看護師としてその人にあった環境に整える事の大切さを意識し授業 に臨みましょう。 ・実習において、受け持ち患者のベッドとその周囲の環境整備が自信 を持ってできるよう確実な技術を身につけましょう。 ・活動に関する基本的な技術は、学生同士で安全に実施できるよう根 拠を理解し、確実に身につけましょう。 ・演習や実習で出会う対象者をイメージし、技術のスキルを目指して いきましょう。								
評価方法	配点	京:環境 動く眠る	30点(終了詞 る70点	忒験20点・技術	試験10点)		-ト提出について約	—— 総合的に評(	 西します。
			座 専門分野 モニ	基礎看護技術	」Ⅱ 医学書院	完 完			
参考書 備考	旭王	『、資料で抗	定不						
胂写									

看護学科		講義要綱						
科目		看護の方法V	単位数	1	開講時期	1年後期		
授業形態		講義·演習	時間数	30	必修区分	必修		
担当者	看護師 亀山	山 美穂(30)						
授業目的	衣生活を整	て清潔を保持することや? えるために必要な知識・技術 するため必要な知識・技術	支術を学ぶ。	ることの意	義を学ぶ。			
到達目標		人間にとっての清潔の意義について理解し、患者の状況に合わせて援助を 是供できるようその方法について計画・実施する。						
技術項目		2谷 20:整容 21:点滴・ ア 27:点滴・ドレーン等を			ない患者の寝衣交換 24:清 夏衣交換	拭 25:洗髪		
授業概要	援助へつな 仲間同士で	私たちが日常生活で行っている『清潔行動』を意識し、同じ行動、個々に異なる行動を共有し、清潔への 援助へつなげるよう学習する。 中間同士での練習、患者体験を通して、自分で清潔行動がとれないときの気持ちや人からの援助を受 けることに対する思いなどを考える。						
授業方法	対面授業・必	必要に応じクラスを2分割 	して演習を実	施する。		1		
	回数	内	容		準備等	担当者		
	1	清潔の意義 ・清潔・衣生活に必要な成・入浴の3大作用と関連・おもなスキントラブル・スキンケアの4つの目的・保湿剤、洗浄剤の種類の	する効果 内	・日常生活と学びを結びつける ・皮膚の構造と機能(形態機能学IV) ・標準予防策、ボディメカ				
授業展開	2	衣生活の意義 ・熱の移動と被服気候 ・衣類の交換のタイミングの原則 ・衣生活の援助の前に観 ・清潔ケアの種類と方法	察・確認する	ニクス、環境調整技術等、 既習の知識を復習しておく ・プライバシーへの配慮、倫 理的配慮について考える				
	3 4	演習:寝衣交換(後半はている対象に行う寝衣が		・寝衣交換の援助計画 動画視聴				
	5	演習:お湯を効果的に使	うための実験	ì	・1・2講の知識 ・湯の作用や特徴			
	6	演習:足浴の実践			・足浴の援助計画 動画視聴	井出見也子		
	7	演習:陰部洗浄の実践			・陰部洗浄の援助計画 動画視聴	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		
	8 9	演習:全身清拭			・清拭の援助計画 ・動画を視聴			
	10	・口腔機能のはたらき ・口腔ケアの意義、目的、 ・歯周病、呼吸器疾患予 演習:口腔ケアの実践	効果、方法 🗓 防	<b>養歯</b>	・口腔ケアの援助計画 オーラルフレイル 災害時 動画視聴			
授業展開	11 12	演習:臥床患者への洗髪 ケリーパット、洗髪車、在 実施		・洗髪の援助計画 ・動画視聴				
	13 14	演習:技術のまとめ						
	15	終了試験						

履修条件	形態機能学IVで学んだ皮膚の構造と機能の知識や、事前に学習している知識や技術を活用する力が求められます。そのためには課題の取り組みのほか、学んだことを繰り返し復習し、各回の演習に生かせるように心がけることが大切です。自らの患者体験を通して、自分で清潔行動が取れないことに対する思いや人からの援助を受けることに対する思いなどを考え、自分の援助につなげてください。仲間と積極的に練習をしてください。
評価方法	①終了試験…80%の配点 ②演習・課題レポート(事前・事後レポート)の提出 ③授業へ参加する態度や出席率   ②と③で20%の配点
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 II 医学書院
参考書	
備考	

看護学科 講義要綱

<b>看護字科</b>	<u>†                                    </u>		Ī	<b>講</b>	<u> </u>							
科目	ā	看護の方法'		単位数	1	開講時期	1	年後期				
授業形態		講義・演習	त्र इ	時間数	30	必修区分		必修				
担当者	看護師	看護師 今井 弓珠(12)   岡村 恵乃(18)										
授業目的	与薬・	与薬・検査における基礎的知識・技術を学ぶ。										
到達目標		· STANS IN FRANCISCO										
技術項目		38:経口薬の投与 39:経皮・外用薬の投与 40:坐薬の投与 53:検体(尿、 血液等)の取扱い 55:静脈血採血 56:検査の介助 64:患者の誤薬防止策の 実施										
授業概要	形態機能学の知識を活かしながら、安全・安楽に治療検査が受けられる よう 看護師に必要な知識と技術を講義・演習を通して習得する。 演習は単独で実施できるように教員が複数でサポートしながら進める。											
授業方法	講義・決	演習(事例	検討・患	者・看護的	ででを交付	けしながら演	習する)					
	回数			内容			準備等	担当者				
	1	安全に与薬	するため	りに			講義	<u> </u>				
	2	与薬におけ	る看護師	の役割			講義					
	3	経口的与薬の方法と注意点講義 演習直腸内与薬、点眼演習吸入、点耳、点鼻講義 演習						A 11				
	4							今井弓珠				
	5											
12.W. C. BB	6	貼付・塗布・塗擦										
授業展開	7	検査とは					講義					
	8	検査におけ	る看護師	の役割			講義					
	9	検査におけ	る看護師	の役割			講義					
	10	静脈血採血	について				講義	岡村恵乃				
	11 12	静脈血採血	_				演習 演習	画作品が				
		検体検査と	その扱し	 \・測定			演習					
		生理検査	2 10 3000				講義					
	15	終了試験(	筆記)				講義					
履修条件	形態機能	能学の知識	を使える	よう復習し	ておきま	<b>き</b> しょう。						
評価方法	レポー	ト課題・終	了試験				_					
テキスト	系統看		専門分野	基礎看護	養技術Ⅱ							
参考書	写真で	わかる臨床	看護技術	1 本庄恵	子イン	ノターメディ	力 一					
備考												

TAI 🗆		手帯の士汁畑	774 /T	1	88=#n+#0	1 /T /// HD		
科目		看護の方法Ⅶ	単位	1	開講時期	1年後期		
授業形態		講義・演習	時間数	15	必修区分	必修		
担当者	看護師	高野 祐志						
授業目的		アセスメントについて看護における 査定を行うための具体的な方法を学		」ルアセス〉	メントの関係	性を理解し、		
到達目標	問診やフィジカルイグザミネーションの技術を活用して得られた情報から対象の身体状態を アセスメントできる。							
技術項目	50:バ	イタルサイン 52:フィジカルアセ	スメント					
授業概要	業概要 対象の身体状態をアセスメントするための問診・視診・打診・触診・聴診の技術の方法を学ぶ。 血圧測定およびバイタルサイン測定ではチューターグループで技術の習得を目指す。							
		内容	準	担当者				
	1	フィジカルアセスメントと基本診断	請	義				
	2	フィジカルアセスメントに活用する	講義後	急に演習				
	3	運動機能のフィジカルアセスメント	講義後に演習					
授業展開	4	腹部のフィジカルアセスメント	講義後	<del></del> ===				
	5	フィジカルアセスメントに活用するバイタ	講義後	高野				
	6	循環機能のフィジカルアセスメント	`	請				
	7	循環機能のフィジカルアセスメント	~	湞	習			
	8	終了試験						
履修条件	形態機能さい。	: 能学の知識を十分に振り返り、人体	の構造をイメーシ	<b>ジしながら、</b>	講義・演習	に臨んでくだ		
評価方法		験、課題学習の提出状況・内容、血 日数・授業態度)	圧測定・バイタル	,サイン測気	它の技術習得	度、出席状況		
テキスト	看護がみえる③フィジカルアセスメント 岡庭 豊 メディックメディア - 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院							
参考書	はじめてのフィジカルアセスメント 第2版 横山美樹 メディカルフレンド社							
備考	演習は	演習は学生同士が患者役・看護師役を交代で行うため、ポロシャツで臨むこと。						

看護学科 講義 要綱

<b>看護字科</b>							
科目	看護過程演習 単位数 1	開講時期	1年後期				
授業形態	講義・演習 時間数 30	必修区分	必修				
担当者	看護師 今井 弓珠						
授業目的	事例を用いて看護過程を展開し、看護の専門的思考について学ぶ。						
到達目標	看護の考え方を学び、事例展開することで看護に必要な看記	看護の考え方を学び、事例展開することで看護に必要な看護過程の理解を深める。					
技術項目							
授業概要	、間の心理・社会的背景、基本的欲求、生理機能の障害、生活の障害などの視点から、看護師と いて患者を理解する方法を学ぶ。そして、看護問題の明確化、看護計画立案を行い、根拠のある 請護援助方法を見いだす。さらに援助の評価方法を学び、より質の高い援助を実施するための思 ぎを事例を通して学ぶ。理解を深めるためにグループワークも活用します。						
	回数 内容	準備等	担当者				
	授業の進め方、看護過程の知識確認テスト 1 なぜ看護過程を学ぶのか、自己のクリティカル性を客観的に分析する	課題提出					
	アセスメントー1 2 アセスメントの視点(ヘンダーソンの基本的欲求) 情報収集、情報の解釈・分析を行う	課題提出					
	アセスメントー2 情報分析の統合化、関連図の記入	課題提出					
	4 関連図の記入 (GW)	課題提出	- - - - - -				
	問題の明確化 5 望ましい姿、看護問題を考える(問題の種類、表記方 法、優先順位)	課題提出					
授業展開	看護計画立案 6 看護計画を立てる(短期目標・期日・計画立案、計画の 表記方法)	課題提出					
	7 実施・評価 SOAP形式の記録、達成期日に行う評価	課題提出	木下真理子				
	8 事例展開1 説明 シナリオワーク1	課題提出					
	9 事例展開2 共同学習・シナリオワーク2	課題提出					
	10 事例展開3 共同学習・シナリオワーク3	課題提出					
	11   事例展開4・5   共同学習(全体像の理解、看護問題の明確化、望ましい   12   姿)	課題提出					
	13 事例展開6・7 計画した援助の実施(模擬患者に援助を実施する)・リ	課題提出					
	14 フレクション 15 まとめ、タマデザ						
	15   まとめ・終了試験   根拠に基づき看護を計画的に実践する能力を身につけていきます						
履修条件	看護になるための専門的思考を学ぶためには、今まで学んだ知識を使い、不足している点は自分で調べ考える必要があります。どのように考えたのかを意識するために、言葉で表現していきます。普段から「調べる」、「考える」習慣を身につけ、わからないことをそのままにせず、主体的な取り組みを期待しています。 課題提出期限を守り、回を重ねるごとに学びを深めていきましょう。						
評価方法	1 出席状況 2 終了試験 3 事例展開の実際 4	課題提出物					
テキスト	①書名       ②著者名       ③発行系統看護学講座         專門 I       基礎看護技術 I       医学養養						
参考書	看護の基本となるもの ヴァージニアヘンダーソン 日本	看護協会出版会	<u> </u>				
備考							
	<u> </u>						

# 講義。要綱

科目		地域・在宅看護論概論	単位数	1	開講時期	1年前期	
授業形態		講義	時間数	15	必修区分	必修	
担当者	看護師 石島 祐美(13) 木下 晴美(2)						
授業目的	地域で暮らす人々について理解し、その方々のサポートについて理解する。						
到達目標	<ul><li>1 地域に暮らす人々の暮らしを理解する</li><li>2 地域・在宅看護論を学ぶ意義を理解する</li><li>3 暮らしの中で看護を理解する</li><li>4. 地域・在宅看護の機能と役割を理解する</li></ul>						
技術項目							
授業概要		E宅は、「暮らし」の視点が大切です。医療 対象とはどのような人なのかを考えていく			象はどのような	事らしをしてい	
		内容			準備等	担当者	
授業展開	1 • 2	地域・在宅看護の機能と特質 1) 担い手と看護を提供する場 2) 地域で暮らしつづけることを支援する ・倫理と基本理念、権利保障 ・自己意思決定支援(ACP) ・ケアマネジメント 3) 在宅看護の目的と機能 ・健康の予防・維持・増進 ・介護予防 ・インフォーマルネットワーク	5マネジメント		・地域包括ケ アシステム ・「暮らし」 とは	石島 祐美	
	3	地域・在宅看護の意義と必要性 ・地域包括ケアシステム ・自助・公助・共助・互助 ・地域・在宅看護の意義と必要性			・動画視聴 ・4つの 「助」と地域 との関連性	木下 晴美	
	4	地域・在宅看護の対象・場の理解 ・病院(外来・入院)診療所 ・居宅(自宅・施設) ・療養通所型事業所、介護施設など			・地域・在宅 看護論に関連 する法律や制 度	石島 祐美	
	5	   地域・在宅看護の対象・場の理解  ・地域にある介護事業所の視点から、地域	で暮らすことをき	考える	・地域で暮ら すことは	石島 祐美	
	6 • 7	地域・在宅看護の特徴 1) 制度と訪問看護 2) 暮らしの自立支援 3) 病状・病体の変化の予防と予測 4) 暮らしの中で起こる問題 5) チームケア 6) ケアマネジメントと看護の役割			・地域におけ る看護の役割 と看護の視点 ・自立支援に 向けた関わり	石島 祐美	
	8	終了試験					
履修条件							
評価方法		出席日数 授業態度 課題提出状況 7					
テキスト		系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看 国民衛生の動向 医療福祉総合ガイドブック 医学書院		学書院 学書院			
参考書							
備考							

科目		地域・在宅看護論演習	単位数	2	開講時期	1年後期		
授業形態		演習	時間数	45	必修区分	必修		
担当者	看護師 石島 祐美							
授業目的	地域で暮らす人々の「健康」にむけた暮らしを実体験から学ぶ							
到達目標	<ul><li>1 地域で暮らす市民(人々)の様々な生活の場があることがわかり、健康に向けた暮らしの実際を理解する。</li><li>2 地域の施設のひとつである「病院」について「暮らし・生活」の視点から理解する。</li></ul>							
技術目標								
授業概要	人々の暮らしの場である「地域」を「生活者」と「看護」の視点から学びます。「健康」に向け て人々がどのような暮らしをし、考えているのかを個人でグループで考えて深めていきます。							
	回数	内容		準	備等	担当者		
	1	地域について考えよう		夏休みの課題の共有を行う。	題を使い学び う			
	2	<u></u> 地は、大ウ毛港シ中図する中	331 <del>1/</del> -=1.∕~ +=== + ===					
	3	地域・在宅看護論実習 I の実 べ、情報交換	省施設の概要を調					
	4							
	5	  調べた実習施設の概要を発表		  11月の地域				
	6			論実習 I に 習となりま	句けての学			
	7 8			首となりま	9 0			
授業展開	9	地域・在宅看護論実習 I に向   事前オリエンテーションを§				- 石島 祐実		
32214221713	10	ついて学ぶ						
	11							
	12		)学びの振り返りと	地域・在宅看護論実習 Iの前半の学びのまと めと情報共有の時間と なっています。				
		地域・在宅看護論実習 I での 情報共有						
	14							
	15 16		アキのの振り返りと共			1		
		」 地域・在宅看護論実習Ⅰでの		地域・在宅看護論実習   I での学びをグループ   ワークを通して発表を				
	18	有・発表 						
	19			行います。				
	20	地域の施設の一つである「病	院」での暮らしを考	静岡市立清水 基礎看護学実				
	21	える		た患者の生活	を想起し、療			
	22	<b>キ</b> レめ		養生活につい	しちんより。			
	23   まとめ							
評価方法	出席日数 授業態度(演習への参加態度も含む) 課題提出状況 ポートフォリオ							
テキスト	実習要綱 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 医学書院 医療福祉総合ガイドブック 医学書院							
参考書								
備考								
	•							

					1			
科目		精神看護学概論	単位数	1	開講時期	1年前期		
授業形態		講義・演習	時間数	30	必修区分	必修		
担当者	看護師 森 康太(10) 公認心理士 酒井田 愛香(20)							
授業目的	精神看護学の基盤となる「こころ」を多角的な視点から理解する。							
到達目標	<ul><li>1 現代社会におけるこころの健康の現状を知り、精神看護の必要性を学ぶ。</li><li>2 こころの健康について学び、看護師の役割を理解する。</li><li>3 精神保健について理解し、精神保健活動について学ぶ。</li><li>4 こころを病む人を取り巻く社会の現状と歴史を知り、必要な支援について考える。</li></ul>							
技術項目	71精神的	り安寧を保つためのケア						
授業概要	精神科看護学では、心のはたらきについてどのような研究がなされてきたかを学び、実践に生かせるような知識を習得することを目的とする。また、自分の心の動きについても注目し、演習でセルフケアの方法を学ぶ。患者とその家族とのスムースでサポーティブなコミュニケーションを学び、対人スキルと心のケアについての理解を深める。							
		内容		準	備等	担当者		
	1	開講オリエンテーション こころとは何か、こころの健康とは何:	か考えてみよう	グルー	プワーク	森 康太		
	2	ケアの人間関係 自分について知ること、相手を知ろ	うとすること	ペア	ワーク	森康太		
	3	心の仕組みとパーソナリティ				酒井田 愛香		
	4	自己理解のための心理検査1(質問紙)	法)	演習		酒井田 愛香		
	5	ストレスのメカニズムとストレスマネ· リラクセーション法:呼吸法	ジメント	演習		酒井田 愛香		
	6	精神疾患と社会復帰支援 1		演習 グル	ープワーク	酒井田 愛香		
	7	精神疾患と社会復帰支援 2		演習 グル	ープワーク	酒井田 愛香		
授業展開	8	コミュニケーションとアンガーマネジメン リラクセーション法:マインドフルネス・筋 練法		演習		酒井田 愛香		
	9	様々な精神療法と実際 認知行動療法		演習		酒井田 愛香		
	10	心の仕組みと発達 自己理解のための心理検査2(投影法)	):バウムテスト	演習		酒井田 愛香		
	11	カウンセリングのエッセンス 1 自己理解のための心理検査3(投影法)	):雨の中の私	演習		酒井田 愛香		
	12	カウンセリングのエッセンス		演習 グル	ープワーク	酒井田 愛香		
	13	生活の場と精神保健、静岡市の精神保健	建の現状	グループで	調ベ学習	森 康太		
	14	調べ学習の発表		各グループ	発表	森 康太		
	15	終了試験				森 康太		
履修条件	主体的なコミュニケーションや学びを大切にする。したがって、積極的で対話的な参加態度を希望する。							
評価方法	講義の出席状況・レポート・筆記試験を総合的に評価する。							
テキスト	系統看護学講座 専門分野II 「精神看護の基礎」精神看護学[1] 医学書院 (酒井田・森) ※補助教材や関連資料も使用するが、各講義において配布する(酒井田)							
参考書								
備考	自己理解や臨床に生かせる知識習得のため、講義中いくつかの心理検査を実施予定。							

看護学科 講義要綱

自成了作		我 女	小师			
科目	成人看護学概論	単位数	1	開講時期	1年後期	
授業形態	講義	時間数	15	必修区分	必修	
担当者	看護師 木下 真理子					
授業目的	成人看護の対象を理解し、健康支援をするための基礎を学ぶ。					
到達目標	<ul><li>1 成人看護の対象である成人(大人)について、成長・発達過程からみた成人の特徴を理解する。</li><li>2 成人期の健康を支援する理論の活用について知る。</li><li>3 成人の健康の動向について統計を読み解く。</li><li>4 成人の保健・医療・福祉政策について知り健康支援を考える。</li></ul>					
授業概要	成人期の対象の理解のために、まずは自分自身や自分の周囲の成人期の人を手掛かりに生活を営む様子を調べ成人期にはどのような身体的・心理精神的、社会的な特徴を知る。成人期の社会生活や暮らしに目を向け、働くこと、家族関係、生活スタイルなどの実状を知る。 様々な統計から、成人期の健康問題を知る。そのような成人期の健康を守るための保健・医療・福祉政策を調べ、成人期の対象が地域社会で健康状態を維持しながら生きられることを支援できるように基礎的な知識を学ぶ。					
	内容			準備等	担当者	
授業展開	1 成人の生活と健康 成人期を生きる人とはどのようなで 2 成人の健康レベルや状態に対応し ヘルスプロモーション p92~15 3 成人の健康レベルや状態に対応し 人生最期のときを支える看護 4 成人の健康レベルや状態に対応し 健康生活の急激な破綻の状況にある 5 成人の健康レベルや状態に対応し 慢性病とともに生きる人を支える看 6 成人への看護アプローチの基本で プローチの基本で プローチの基本で 意思決定支援 8 成人期を生きる身近な人の健康を	ルた看護④ 8 ルた看護① ルた看護② る人を支える ルた看護 「護 「動変容を促 でである。	看護 p240~238 進するア		木下真理子	
履修条件	計画的に予習し臨むこと。		1±1-12-01	# 4 <b>~</b> +> /	_ \	
	日頃から健康問題や健康支援に関		帯に注目し	・集めておく	こと。	
評価方法	小テスト・課題レポートで評価す					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人 国民衛生の動向2025/2026 厚雲		6 医学書院	Ē		
参考書	健康づくり対策に関する新聞記事	<u> </u>				
備考						

科目		老年看護学概論	単位数	1	開講時期	1年後期		
授業形態	講義時間数			15	必修区分	必修		
担当者	看護師 今井 弓珠							
授業目的	少子高齢化が加速しているわが国において、老年看護に求められる期待は大きく、看護実践の対象者の多くを占めている。そこに関わる私たちは、老年期の対象理解は必修である。老年看護の意味を深めながら、住み慣れた地域で暮らす生活の視点を学び実践に繋げていきたい。また、自分自身の老いを体験する前に、未知なる老いの世界を探索し考えることから、未知なる自己の人生をも思考し発展させ深めたい。							
到達目標	1 ライフサイクルの中で老年期をとらえ、老年期にある対象の身体的・心理的・社会的機能の特徴と 生活を関連づけて理解する。 2 高齢者が地域で暮らしていくための支援を理解する 3 高齢者の課題を理解し、高齢社会の中で求められている老年看護の目標・役割を理解する。							
技術項目								
授業概要	・自分を取り巻く社会から、いずれ皆さんも往く道としての老年期をより豊かに迎えられるように、 自らの周りを改めて見つめ自分のこととして考えてみよう。 ・日頃から政策や社会の時事に関心をもって、現代の高齢社会について見聞し、実践的な看護について 考えてみよう。 (高齢者・生活・生命・医療倫理について、新聞・テレビの情報に積極的に目を向けよう。)							
	(同断)1	内容			1を向けるり。/ <u>-</u> 準備等	担当者		
						担ヨ有		
	1	・超高齢社会の現状の理解 ・高齢者の身体的・精神的・社会的特	特徴の理解	・自分が抱いている高齢者観 ・インタビュー対象の決定 (高齢者1名以上)		今井 弓珠		
	・高齢者の身体的・精神的・社会的な特徴と 2 生活への影響を関連付けて考える (インタビューを活用する)			・事例の調	が学習	今井 弓珠		
	3	・高齢者の特徴・死生観について、実 学びを深化させる ・対象の発達課題を捉える意味を振り 場面を活かして考える		・新聞記事 ・実習で見 こと	の考察 たこと・聞いた	今井 弓珠		
授業展開	4	・社会の変化に伴う法律や支援体制 ・法律や支援体制について、実際の 付けて考えることで、高齢者が地 ことについて考える	)体験と関連	度の変遷に ・実習で見	関する法律や制 ついて 聞きした高齢者 律や制度に関連	今井 弓珠		
	5	・老年看護を実践するにあたり必要な ついて理解する ・理論・概念を実際の体験と関連付け		概念につい ・実習で見	で必要な理論・ て 聞きしたこと 概念を関連させ	今井 弓珠		
	6	・権利擁護を理解するために必要な用理解できる ・権利擁護の必要性を学ぶ ・専門職連携教育(IPE)の必要性を 専門性と役割について考える		について ・高齢者の	に関連する用語 支援に関わる職 役割について 門性	今井 弓珠		
授業展開	7	・高齢者を取り巻く多職種の理解・役 専門職連携教育(IPE) (看護師・介護福祉士・社会福祉		・IPEに必要	要な資料の作成	今井 弓珠		
	8	終了試験				今井 弓珠		
履修条件								
評価方法	①筆記試験(60点) ②課題の提出状況 ③GWの評価(資料の作成・発表) ④授業への参加状況							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 (財)厚生統計協会							
参考書								
備考	理論・ 制度	概念 サクセスフルエイジング、コ エンパワメント理論 介護保険制度、高齢者医療確		ストレング	グスモデル、			